

グラウンド西側にある田んぼに住んでいる ホウネンエビ

水田の土中で休眠していた卵は春、水が張られた後水温が上昇すると一斉に孵化します。最初の幼生はノープリウスと呼ばれる形態で体長 1 ミリメートルたらず、やや赤みを帯びた体色で、三対の付属肢をもちます。

その後、幼生は脱皮を繰り返し、次第に体節と鰓脚を増やし細長く成長すると同時に、遊泳に用いられた第二触角は小さく目立たなくなって、成体と同じ姿となります。

